平成 26 年 3 月 10 日

稲積水中鍾乳洞
青松支配人殿

沖縄潜水科学技術研究所
沖縄県那覇市松尾 2-2-14-306
代表 近藤正義

稲積水中鍾乳洞潜水調査報告書

稲積水中鍾乳洞第二次潜水調査について、下記のとおり報告いたします。

記

1. 調査期間

平成 26 年 2 月 24 日から 2 月 27 日まで
24 日は器材の搬入のみ、潜水調査は 25 日から 27 日までの 3 日間

2. 調査目的

水中鍾乳洞全体の測量と本洞最奥部の調査

3. 調査方法

従来の開放式スクーバシステムに比べて排気の泡を極力抑えることができる閉鎖式循環呼吸器(リブリーザー)を使用。測量は水中で電波を発し、その電波が反射する時間を利用して正確な距離を測定することが可能な携帯式の水中ソナーを使用。

4. 調査結果

調査実施前に大分県地方に降った大雪の影響で雪解け水が洞内に入り込んだのと、調査の約二週間前入った別の潜水チームが開放式スクーバシステムを使用したため、ダイバーが吐いた泡によって洞内の天井の粘土質が剥がれ落ち、それらが水底や壁に厚く堆積して、ダイバーが通っただけでシルトが舞い上がり、視界を極端に悪くしたため、ソナーを使った最奥部の正確な測量は出来なかったが、既に設置されている全長 500m のラインエンドから更に 200m 以上洞窟が続いていることが確認できた。

更に示現の淵から約 150m ほど進んだところに支洞を発見。今回は支洞の入り口から約 100m 進んだところで引き返したが、支洞は更に奥まで続いていた。正確な測量は次回の調査に実施する予定だが、現時点では確認できた連続した水没部分の全長は約 800m 以上あると思われる。

以上のことから、水中洞窟としては、秋吉台のサンプ部分 320m、沖縄県久米島のガーラガマ(通称ヒデンチガマ)450m、沖縄本島のヒロベガマ総延長 620m を抜いて、稲積水中鍾乳洞が現時点で日本最長であると思われる。

5. 添付書類

大分朝日放送で放映されたニュース番組の録画ビデオ CD

第二次潜水調査で撮影したビデオ映像 DVD

以上